



急傾斜地のミカン産地

急傾斜地ミカン園の再構築を支援する技術開発

広島県島しょ部の急傾斜地で生産されたミカンは食味が良いことで評判ではあるが、省力化の遅れによる生産コスト高と単価安は経営を大きく圧迫している。また、高齢化にともなって管理作業が不十分で、生産性や品質も低下している。このため、省力化、低コスト化はミカン産地の再構築に最も緊急を要する技術課題である。

当研究室では、テラス幅の狭い急傾斜地での省力化・軽労働化に取り組んでおり、作業道を確保できる新しい樹形およびその省力結実管理法の開発、マルチなどの資材を使わなくても省力的に品質を高める技術の開発、有機物を自給して土づくりに活用する技術の開発、肥料の流亡が少ない施肥法の開発など、栽培管理の合理的な省力化と集約化の体系を確立して、平成19年までに高品質ミカンの省力生産技術を開発する

ことを目指している。

急傾斜地カンキツ園地域では園内道の整備などの基盤整備が計画されている。開発技術がこれと一体に産地に導入されれば、産地の再生に寄与できると考えている。

当研究室ではこのほか研究開発の柱として、①独自性の高い品種の育成、②省力・低コスト栽培技術の開発、③高品質・安定生産技術の開発、④安心・安全なミカンを生産する病虫害防除技術の確立が不可欠かつ緊急の課題と考え取り組んでいる。

これらの研究成果が生産現場で活用され、産地の活性化に寄与できるよう、これからも技術開発に取り組んでいきたい。

常緑果樹研究室長 長谷川繁樹

トルコギキョウをペーパーポットでらくらく育苗

トルコギキョウは種子が微細であるために生長が遅く、定植までに50日程度の長期の育苗となります。そこで、育苗期間を短縮し、定植作業を軽労化する、ペーパーポット育苗法を開発しました。

1. 種子の低温処理

播種前に種子低温処理（水中に沈めて10℃の暗黒下で5週間）を行います。播種後30日程度で定植でき、ロゼット化しにくい苗ができます。



2. ペーパーポットへの播種

播種容器はペーパーポットを用います。肥料分を加えた育苗培地に播種することで、追肥をしなくても苗はよく生長します。

3. 定植作業の快適性

定植時に苗を抜き取る必要がないため快適に作業ができ、定植時間が従来のセル成型苗定植に比べて35%短縮されます。

(花き栽培研究部)

定植作業の快適感と定植時間指数

育苗容器	快適感評価指数		定植時間指数
	苗の調整作業	定植作業	
200穴セル成型トレイ	3(ふつう)	3(ふつう)	100
ペーパーポット (2cm角×5cm深)	5(快適)	4.8(快適)	65

定植時間指数: 200穴セル成型トレイを100とした指数

トルコギキョウの葉先枯れ軽減技術

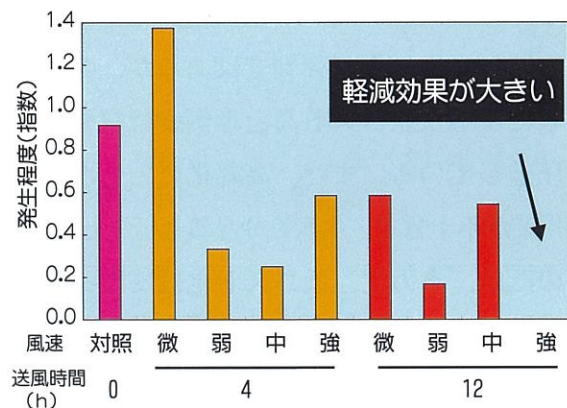
トルコギキョウの葉先枯れ症は、激しい場合には生長点が枯死し、腋芽が伸長して商品性が著しく低下する生理障害です。ハウス栽培で6、7月の高温時期に頻発しています。そこで、活着時から花芽分化期（草丈7～30cm；およそ20日間）までの送風および葉面散布剤により、トルコギキョウの葉先枯れが軽減できることを明らかにしました。

1. トルコギキョウの地上部に日中（12時間程度）

毎秒1.0～2.0mの風速で風を連続して与えます。

2. 激発時には、送風と有機キレートカルシウム液剤（50～100倍希釈；700～1400ppm）の葉面散布とを併用し、1株当たり約2cc、2～3日間隔で7～8回施用します。

(環境資源研究部, 花き栽培研究部)



葉先枯れ症の発生抑制に及ぼす送風の効果
(供試品種:マイテレイ)



送風により葉先枯れ症が発生しない

夏季ホウレンソウにおける硝酸含量の低減化技術

夏季のホウレンソウでは、硝酸含量が多くなる傾向があります。硝酸は、体内で亜硝酸に変化し、多量に摂取すると、血液中のヘモグロビンと結合して酸素欠乏症状を引き起こすとされています。そこで、ホウレンソウの硝酸含量を少なくする技術の開発を行いました。

1. 品種を選ぶ

品種については、「アクティオン」等、葉身が大きいものほど硝酸含量が少ない傾向があります。



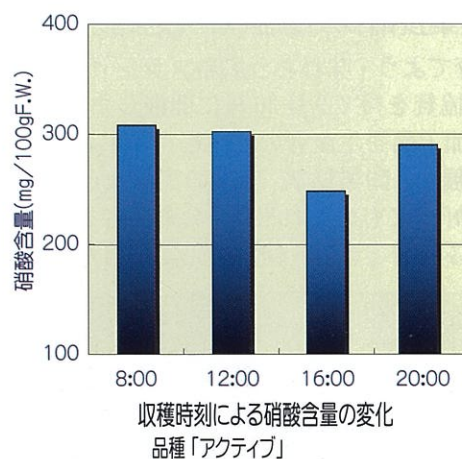
2. 夕方に収穫する

収穫時刻については、夕方が他の時間帯に比べ、硝酸含量が少ない傾向があります。

3. 収穫前に窒素を切る

水耕栽培など、施肥量が簡単に制御できる栽培では、収穫1週間前から窒素を与えないようにすれば、硝酸含量を少なくすることができます。

(野菜栽培研究部)



トラップ植物によるキクえそ病 (TSWV) の防除

ミカンキイロアザミウマの分布拡大に伴い、この虫が媒介するトマト黄化えそウイルス (TSWV) の被害が増加しています。この虫は農薬が効きにくい上に、キクを含む多くの植物にウイルスを感染させます。そこで、トラップ植物としてのバーベナの効果を検討しました。

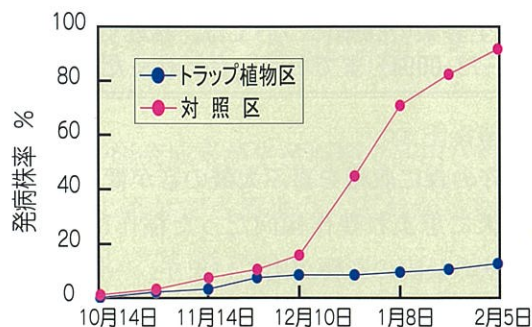
電照ギクの周りにバーベナを栽植した場合、バーベナがキクからミカンキイロアザミウマを誘引し、キクのミカンキイロアザミウマの発生量が通常よりも極めて少なくなりました。その結果、この虫が媒介するキクえそ病の発生は通常の1/7以下に抑えることができました。

今後はバーベナの栽植密度と誘引効果との関係などを明らかにし、現場で利用できるトラップ植物の栽植方法を明らかにします。

(環境制御研究部)



キクの周囲にバーベナを栽植する



トラップ植物バーベナの栽植がキクえそ病の発生に及ぼす影響

農産物種子の貯蔵施設「農業ジーンバンク」を紹介します

(財)広島県農林振興センター農業ジーンバンクは、遺伝資源の保存と再利用を目的に平成元年に設立されました。貯蔵種子点数は約18,000(稲類:7,600, 麦類:2,900, 豆類:1,600, 雑穀・特用作物:1,000, 飼料作物:2,400, 野菜類:2,500等)です。研究機関以外での昨年度の利用点数は豆類, 野菜類を中心に135点でした。今後も積極的にご活用ください(Tel & Fax 082-429-2599)。

◆ジーンバンクで保存している特徴のある品種(9) -こつぶの納豆専用種「納豆小粒」-

「納豆小粒」は茨城県の原産で、こつぶ納豆の原料としては現在のところ最適の品種。100粒重は12~13gと「アキシロメ」の半分以下で、裂皮は中位、外観は良い。加工した場合、吸水率が高く、蒸煮が容易で浮皮が少なく、しかも甘みがあるため良い納豆になる。

東広島での播種適期は5月下旬~6月上旬。畦幅70cm前後, 株間20cm前後, 1か所1本植えとし、莢に十分日が当たるようにする。開花期は7月下旬。莢は小型だが着莢数が極めて多いため、密植し過ぎると雨の多い年には莢にかびが生えることがある。収穫期は10月中旬となる。
(農業ジーンバンク:船越建明)



◆農業技術フェスタ(一般公開)へのご来場ありがとうございました

「育てよう・味わおう広島ブランド」をテーマに、農業技術フェスタを農業改良普及センター、病虫害防除所の協賛を得て9月30日に開催しました。新しい試みとして当センターで開発した技術で生産された生産物・加工品を生産者の協力を得て展示販売をしたところ好評でした。また、本年の特徴として農業相談、パネル展示、圃場見学、実験の実演などの説明に熱心に耳を傾ける見学者が多かったようです。当日は台風一過の好天にも恵まれ700名の来場者を得て盛況のうちに終了することができました。ご来場を頂いた方、出展やふるさと産品・軽食販売にご協力を頂いた方々に厚くお礼を申し上げます。



開発技術による産品展示



広大、田中教授による講演会



試験研究圃場案内

◆ようこそ農業技術センターへ(7~9月の来所者紹介)

- ◎8月19日:八千代町稲作部会16名が水稻栽培技術の研修をされました。八千代町の気象、水稻生育経過、最近の研究成果等の解説を受けた後、圃場を見学されました。
- ◎8月25日:韓国安城市の梨農家42名が、梨栽培の現場を見学にこられました。女性農業者の方々が中心で、日韓の栽培方法の違いを比較しながら、所内の梨圃場を見学されました。

※視察・見学等は随時、全所で受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

◆農業技術大学校 一般入学試験募集のお知らせ

広島県立農業技術大学校では、平成17年度の学生を募集しています。本科は2年制で実践学習(実習)を中心に農業の基本技術や先端技術習得を目指します。園芸課程(野菜, 花き, 果樹コース), 畜産課程(肉用牛・酪農コース)合わせて定員50名(一般入試は定員の50%)を一次と二次の2回募集します。学生募集の詳細については、お近くの地域事務所農林局地域営農課または農業技術大学校教務課(Tel 0824-72-0094)までお問い合わせください。

∞ 編集後記 ∞

鎮守の森に収穫を喜ぶ太鼓の音が響きます。夏の好天に恵まれ豊作傾向だった稲作は度重なる台風と秋の長雨の影響が出ています。

農業技術センターでは、キク、トルコギキョウが見ごろを迎え、ミカンが収穫盛期となります。

農業技術センターだより No.76 平成16年10月25日

発行 広島県立農業技術センター
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
Tel 082-429-0521 Fax 082-429-0551
果樹研究所 Tel 0846-45-1225
柑橘研究室 Tel 0848-68-0131
<http://wwwarc.f-net.naka.hiroshima.jp/>
e-mail: ngckikaku@pref.hiroshima.jp

お問い合わせ、ご意見は企画情報部Tel 082-429-0552までお寄せください。センターホームページ、eメールでもお待ちしております。

